

施策番号 1-1-2	施策名 農業生産性の向上と経営基盤支援	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり			
		政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	佐々木快治	内線	410
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
環境に配慮し、効率的な農業生産を進めるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展による安定した地域経済の推進を図ります。		農業経営体 農業者で組織 する団体(生 産・加工・流 通)	<ul style="list-style-type: none"> 生産性の向上に向けた土づくり、適正な輪作、病害虫・有害鳥獣対策を進める 先進的技術や施設整備による効率的な農業経営 地元産農畜産物のPRと販路拡大 				安全・安心の農畜産物の供給 持続可能な農業経営による地域経済の拡大・推進
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 農業産出額	農業生産額(農業再生協議会)	億円	270	311	311	314	
②							
③							
④							
成果指標設定の考え方	①農業産出額を本施策の成果指標とし、過去最高の数値と同程度を目指すもの。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	455,509	1,026,646
人工数(業務量)	4.4870	4.3966

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	子牛価格の高騰等、堅調な家畜市場を背景に畜産物の生産額が伸びていることに加え、これまで行ってきた基盤整備の事業効果が生産額全体の伸びにつながっていると考える。
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	2019年の農業生産額は過去2番目の額となり、今後も気象条件や災害、新型コロナウィルス等の予測できない様々なリスクはあるものの、これまでの基盤整備や施設等の整備、関係機関による営農指導を継続することにより、目標の達成は期待できるものと考えている。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業振興センター運営事業 農業気象情報機器管理事業 堆肥製造施設運営支援事業 畜産クラスター協議会運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興センターや堆肥製造施設の事業実施により、農業現場における技術指導や土づくり支援等が行われ、農業生産性の向上が図られている。 畜産クラスター事業により、畜産農家の生産基盤整備を推進するとともに、更なる労働力低減等を図ることを目的に、哺育育成施設の建設も進めている。 農業ICTについては、これまで検討会議等で情報共有、協議を行ってきたが、今後は光回線や5Gの活用等、ネット環境の基盤整備について、より具体的な検討が求められている。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	畑作・畜産ともに今後も農家戸数の減少が進み、担い手への農地集積や経営規模拡大が予想される。そのため、引続き生産基盤整備の支援を進めていく必要があり、農業のICT化を含めた生産性向上の取組は非常に重要となってくると思われる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<p>取組① 土づくり支援等の継続 農業振興センターや堆肥製造施設の事業実施への参画・支援を継続することにより、技術指導や土づくり支援を充実させていく。</p> <p>取組② 農業ICT化の推進 JA、役場、生産者の役割を整理しながら「芽室町ICT農業検討会議」において、光回線や5Gの活用等、具体的な取組を検討していく。</p> <p>取組③ 畜産課題への対応 「芽室町における酪農基盤整備構想」に基づき、町営牧場の運営体制強化を図るとともに、畜産クラスター事業をはじめとする効果的な補助事業を活用し、哺育育成施設の建設を始め、生産性の向上策を継続実施していく。</p>
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	農業産出額が伸びていることもあり、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	農業ICT化の推進については、JA、役場、生産者と連携・情報共有を図りながら進めてもらいたい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	農業産出額が伸びていることから、庁内評価と同じく策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	ICT化については、役場、農協、商工会が連携して取り組んでもらいたい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した				